

☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	多くの児童がひらがなを習得しており、自分の気持ちや思いを簡単な文章にして表すことができる。一方で、拗音、促音に苦手意識がある児童も存在する。また、物語や説明文を読み取る際に、最後まで正確に読むことをせずに点数を落としてしまう児童もいる。	登場人物の気持ちをよく考えることができる児童が多い。話を最後まで聞くことや、集中して文字を丁寧に書き上げること課題がある児童が多い。 【NRT】統計的に見ると、全国の水準よりも点数が高く、前学年の学習内容は、概ね身に付いていると言える。「文章を読み感想などを伝え合う」項目の結果が一番低く、「読むこと」に課題があると言える。	読みの力は高く、話の内容の大体を捉えることができる児童が多い。感想や自分の考えを話したり書いたりすることに苦手意識をもつ児童もいる。漢字学習に意欲的に取り組んでいるが、正確さに欠ける面もある。 【NRT】全国水準よりも点数が高く、前学年の学習内容は、概ね身に付いていると言える。「言葉の対応に気を付けて話す」「片仮名・漢字の書き、言葉の意味」「主語と述語の理解」の項目の正答率が低く、「話すこと」「漢字の読み書き等」に課題があると言える。	漢字練習では、小テストに向けて練習に一生懸命に取り組む児童が多い。一方で、第3学年の漢字の読み書きに難しさを感じている児童も数名いる。読解力は高く、初めて読む文章に興味を示し、言葉に注意しながら読むことができる。一方、作文などの自分で文章を考え、書いたり話したりする学習では難しさを感じる児童が多い。 【NRT】全国平均と比べると数値が高く、前学年までの内容は概ね身につけていると考えられる。「書くこと」「読むこと」は比較的正答率が高かったが、「話すこと聞くこと」はそれに比べて少し低い正答率であり課題である。	物語の主題や筆者の主張を読み取ることがよくできていた。しかし、その主題や主張を受けて、その学びを今後の生活にどう生かしていくのかということについては、表現できない児童もいた。 「話す・聞く」の領域においては、目的意識と相手意識をもって、伝えることができていた。 【NRT】全国の正答率と比較すると、どの大領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」)も高い数値を示しており、学力が定着していることが分かる。中領域をみると、「情報を選び構成を考えて話す」の値が全国正答率の値に近く、今後高めていきたい能力である。	自分の思いや考えを言葉にして伝えることができる児童が多い。一方、自分の考えを伝えることはできるが、友達の意見を聞いて、考えを深めるまでには及ばない児童が多い。また、語彙数が少なかったり文章構成を考えて書くことに難しさを感じたりしている児童も多い。 【NRT】統計的に見ると、全国の水準よりも点数が高く、前学年の学習内容は、概ね身に付いていると言える。「情報を選び構成を考えて話す」項目の結果が一番低く、「話すこと聞くこと」に課題があると言える。 【学力調査】目的に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して整理したり、自分の考えが伝わるように書いたりすることにつまづきが見られた。
社会			実際に校外に出て見学をしたり、体験したりする機会が少ないため、学習が内容の理解のみにとどまり、実感を伴った理解にまで繋がっていない。 資料から情報を読み取ることはできるが、自分の考えに広げることが難しい児童が多い。	課題意識をもち、進んで問題解決をしている。単元の学習の終末には、学習を自分の生活に落とし込み考えることができている児童が多い。一方で、文書資料になるとどう読み取ったらいいか分からない児童がいる。	課題に正対し、教科書や資料集、タブレットを活用して、調べることはできた。しかし、調べたことをまとめる際に、どのようにまとめたらよいか分からず、難しさを感じた児童がいた。 「国土」に関する知識・技能(緯度・経度等)の深まりが見られなかった。	学習意欲が高い児童が多い。また資料の読み取りの力も高く、学び合う中で資料から正確に調べることができる。一方で、何をどこから調べたらいいか困っている児童や、調べたことから考えたことを書くことが苦手な児童もいる。
算数	1位数同士の加法と減法については多くの児童が計算することができる。苦手意識をもっている児童もブロックなどの半具体物を活用して、答えを求めることができる。一方、文章問題やひねりのある問題に関しては正当数が落ちている。	算数への学習意欲が高い児童が多い。1位数同士の加減計算の定着が不十分なために2位数同士の計算でもつまづいている児童が数名いる。 【NRT】統計的に見ると、全国の水準よりも点数が高く、前学年の学習内容は、概ね身に付いていると言える。「絵や図を用いた数量の表現」の項目の結果が一番低く、「測定・データ活用」に課題があると言える。	学年の5割程度の児童が、学習内容が9割以上定着している。しかし基礎知識の定着が不十分な児童も多い。文章問題から作図をして答えを求めたり、グラフの読み取りや作成をしたりすることに課題が見られる。 【NRT】全国水準よりも点数が高く、全学年の学習内容は、概ね身に付いていると言える。「図形の構成の理解と作成」「たし算、ひき算の筆算」「単位換算」の正答率が低く、「図形」「数の構成と筆算の仕組みの理解」「量感」に課題があると言える。	加減の計算で繰り上がり・繰り下がり間違いをしたり、乗除の筆算では位取りを間違えたりする誤答が多い。基本的な問題解決ができて、その意味を説明したり文章や図で表現したりすることを苦手とする児童もいる。 【NRT】全国平均と比較すると「高い」水準が出ており、前学年までの学習内容は概ね身につけていることがわかる。「円と球」の各部分の名称の間違いや、作図等に課題がある。	「小数のかけ算・わり算」において、知識・技能を十分に獲得できていない児童が多くいた。 自分の考えや解き方を分かりやすく伝えられる児童が多い。 【NRT】全国の正答率と比較すると、全ての領域・問題において、平均以上の高い数値を示しており、学力が定着していることが分かる。 「計算」と「角度」の問題においては、数値は低かったが、全国平均は上回っている。	計算や図形の面積などを求める問題では概ね意欲的に学習に取り組む児童が多い。一方で、表されている数の関係を分かりやすく自分なりに解釈をし、友達に説明することが苦手な児童もいる。 【NRT】統計的に見ると、全国の水準よりも点数が高く、前学年の学習内容は、概ね身に付いていると言える。「単量当たり、速さ」の項目の結果が一番低く、「変化と関係」の理解に課題があると言える。 【学力調査】伴って変わる二つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応

						じて表や式に表す問題につまずきが見られた。
理科			理科の実験で、条件を揃えたり変えたりする理由を考え、理解している児童が多い。一方、植物などを観察するときに、何が変わったのか、または変わらなかったのかななどを詳しく観察して、絵や言葉で表現することが難しい児童が多い。	季節ごとのヘチマの成長の様子の観察では、触感や嗅覚などを用いた観点で観察をしている児童が多い。また、筋肉の動きの実験や、電流を使ったモーターカーの実験など、単元ごとにある実験に熱心に取り組んでいた。しかし、実験内容と学習内容が結びつかず、知識の定着が不十分な点もある。	理科の実験が好きな児童が多い。既習事項を振り返りながら、予想をし、実験、結果まで取り組める児童がいる一方で、予想や考察がなく実験だけで終わってしまう児童もいる。	実験に対し意欲的に取り組んでいる。問題・予想・方法・実験・結果・考察という一連の問題解決力が身につけている児童と、予想が立てられず実験にだけ意欲をもつ児童とが混在している。
生活	育てているアサガオの観察や世話を積極的に行い、生長を楽しんでいる児童が多い。細部までよく観察を行い、絵で表すことができている。一方で、観察したことをどのように表現すればよいか分からず、難しさを感じる児童も半数いる。	植物や生き物の観察をすることが好きな児童が多い。一方で、違いや特徴などの気付きを絵や文章等で表現することに課題が見られる児童が多い。				
音楽	音楽に合わせて拍を打ったり、リズムを打ったりする活動に意欲的に取り組んでいる。歌うことが好きで、楽しんで様々な曲に取り組む姿が見られた。鍵盤ハーモニカの学習では、進んで練習に取り組む児童が多い。一方で、苦手意識をもつ児童もあり、技能に差が見られる。	音楽に合わせてリズムを打ったり、動画を視聴して様々な国の音楽に親しんだりする活動では、進んで学習に取り組む児童が多い。鍵盤ハーモニカの学習では、苦手意識をもつ児童が多く、技能に差が見られる。	歌唱の学習が好きで、曲の特徴を捉えて声の出し方を工夫したり、互いの声を聴き合いながら声を合わせて歌ったりする活動に進んで取り組んでいる。リコーダーの学習にも進んで取り組んでおり、運指や息の強さに気を付けて演奏できる児童が多い。一方で、学習に取り組まない児童、技能面で個別の指導が必要な児童もいる。	曲の特徴を捉えて声の出し方を工夫したり、楽器の演奏に生かしたりできるようになった。互いの考えや意見を聞き、協力して音楽をつくる活動もできる児童が多い。一方で人の話を最後まで聞けなかったり、ルールを守って活動できなかったりする児童がいる。	曲の特徴に相応しい表現を考え、どのように演奏したらよいか工夫して演奏に生かそうとする様子が見られた。全体的には進んで様々な学習活動に進んで取り組む児童が多いが、人の話を聞けなかったり、ルールを守って活動できなかったりする児童がいる。	様々な学習活動に興味をもち、進んで取り組む児童が多い。クラス全体やグループで話し合う活動の際に、自分の思いや意図を活発に発言し、友達の話をよく聴き、よりよい表現のために進んで取り組む児童が多い。一方で、自分の思いや意図を出せなかったり、自信のなさから話し合いに参加できないままいたりする児童がいる。
図工	活動の進め方を理解し、自分らしく表現できる児童が多い。一方、自分好みの活動でないと始めからやらないと決めてしまう児童もいる。道具の安全な使い方や危険性の認識が課題である。	塗り重ねたり、コツコツと積み重ねたりしていくような制作も根気強く取り組む児童が多い。一方で、全体指導で確認した直後に、不安からか一人一人対応を求めている傾向がある。	様々な素材との出会いに高い関心を持ち、集中して自分の思い描いたイメージを形にしようと取り組める児童が多い。一方で自信がなく、表現することをためらう児童も見られる。	一部の児童が、学習ルールが守れず指導の工夫をしている。全体的に発想面をさらに伸ばしたいので、素材や道具の出合わせ方を工夫したい。	周りの友達の良いところを自分の表現に取り入れ、取り組める児童が多い。一方で学習ルールが守れず、表現が思い描いていたイメージに到達する以前に、浅いところで終わってしまう児童も見られる。	自分の興味関心を作品のテーマに紐づけて、作品化できる児童が多い。思春期に入り、周りとは比べたり、周りの目を意識したりして、自信をなくす傾向の児童もいる。
家庭					初めての調理や裁縫の学習に興味をもって取り組む児童が多い。一方、できないと早々にあきらめ友達にやってもらって済ませてしまう児童もいる。	どの分野の学習にも興味関心をもって取り組める児童が多い。一方、分からないできないを伝えられない児童も数名いる。
体育	全体的に体を動かすことが大好きで、休み時間にはほとんどの児童が校庭に出て遊んでいる。しかし、ボールを遠くまで投げることやなわとびなど体の使い方が分からず、思ったように体を動かさない児童も多い。	体を動かすことが好きで、体育の学習を楽しみにしている児童が多い。プールの学習では、きまりを守って楽しく取り組んでいた。勝敗のつくゲームで負けを受け入れることに課題が見られる。	体を動かすことに意欲的に取り組む児童が多い。友達と互いの動きを見てアドバイスをし合ったり、良かったところを話したりして活動に取り組んでいた。勝負に固執してしまい、学習のねらいや目的からずれてしまうことに課題が見られる。	体育の学習が好きで、進んで運動に取り組む児童が多い。友達と作戦を考えたり、ポイントを伝え合ったりしながら学習している様子も多く見られる。一方で、勝ち負けへのこだわりが強く、運動することの楽しさを味わうことができていない児童がいる。	多くの児童は、自他の運動課題をよく理解して、その解決に向けて意欲的に運動に取り組んでいる。一方で、自分の課題を把握できていなかったり、解決に向けて主体的に取り組めないなど、課題が見られる児童もいる。	進んで運動に取り組む児童が多い。技のポイントを友達と伝え合ったり、補助して助け合ったりしながら学習している姿が頻繁に見られた。一方で、課題意識をもたずに運動に取り組み、体の動かし方のコツがつかめない児童もいる。

道徳	道徳的価値について、個々の考えをもつことはできているが、それを文章にして表すことが難しい児童もいる。	役割演技で自分の考えを表すことが得意な児童が多く、友達の考えを聞いて共感する姿も見られる。一方で、自分の考えを表現することに苦手意識をもつ児童も数名いる。	自分の考えや想像したことなどを、文章で表したり発表したりしている。一方で、間違えたり失敗したりすることが不安なために、書いたり発言することを躊躇する児童も多い。	自分の意見をもち、発言したり、友達の発表を聞き、考えを深めたりたりすることができる児童が多い。しかし、発言の頻度や、考えを深める姿勢など、個人差が大きい。	テーマについてよく考えられている。よりよい生き方について議論し、自分の考えを深めることもできている。一方で、生き方に対する自分の考えが十分に深められない児童もいる。	それぞれが自分の考えをもち、友達の意見を共感的・受容的に聞き、自他の違いを認めることができる児童が非常に多い。一方で、意見を積極的に発信する児童と、受け手に回る児童に二極化している傾向がある。
外国語					英語の歌を歌うことが好きで、歌って単語等を覚えている児童が多い。一方で、言っていることが分かっているにもかかわらず、書くことができなかったり、伝えることができなかったりする児童もいる。	単元末のスピーチでは、既習の表現を活用して、相手に伝えようと工夫して発表していた。一方で歌やチャンツを覚えきれていなかったり、書く活動になるとなかなか書き進められない様子も見られたりした。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	<p>課促音や拗音を繰り返し復習のできるプリント学習を行い、内容の定着をさせる。</p> <p>発丁寧にゆっくり読むことを指導したり、音読の学習を多く取り入れたりして、文章を読むという習慣を身に付けさせる。</p>	<p>課プリント学習やタブレットを活用した課題を与え、促音や拗音について繰り返し練習を重ねてきたことで、学習内容が定着してきた。</p> <p>発定期的に音読の宿題を出すことで、文章を読むことに慣れてきた。一方で、スラスラと読むことにはまだ課題があるため、継続して文章に触れる機会をつくっていく。</p>	<p>学集中して書く時間と意見を発表する時間を交互に取り入れ、集中して話を聞いたり文字を書いたりできるようにする。</p> <p>課物語文を読んで、登場人物や背景を読み取る時間を確保する。また、自分の感想をもち、交流したくなるような教材の工夫を行う。</p>	<p>課話す・聞く機会を増やすことで、話し方の定型が少しずつ身に付いた。今後は聞くことについて重点的に指導する必要がある。</p> <p>発自分の気持ちをワークシートに書く時間を確保し、机間指導で声を掛けてきたことで、友達と交流することに前向きに取り組むことができるようになってきた児童が多い。</p>	<p>教日常生活の中から身近な話題を設定することで、目的を意識して、話をしたり聞いたりすることができるようにする。</p> <p>課文や文章の中で漢字を適切に使ったり、文章を整えたりする時間を確保する。</p>	<p>課教材の工夫から目的意識をもって学習に取り組めた。話をしたり聞いたりすることができてきた反面、誤字脱字や文章を分かりやすく整理しながら書くことについては重点的に指導する必要がある。</p>	<p>教初めて読む文章の分からない漢字や言葉の意味等を、辞書を用いて確認する。また、それをノート等に書き記していく。</p> <p>課話したいことを簡潔にまとめて伝えることができるようにメモを用いて発表をしたり話し合いをしたりする活動を取り入れていく。</p>	<p>教わからない漢字や言葉を辞書を用いて確認したり、調べたりすることを続けてきた。意味調べをしたあとにノートに記入することで、使える語彙が増えた。</p> <p>課メモを用いて発表をしたり、話し合いをしたりする活動を何度か経験する機会を作った。話したいことを簡潔にまとめて伝えることができた。</p>	<p>課物語文や説明文の単元を通して、何を学び、その学びをどう生かしていくのかという視点をもって学習を進められるよう、常に意識させていく。</p> <p>課「話すこと・聞くこと」の学習において、何を伝えるべきなのかはもちろん、目的意識や相手意識をさらに高めて学習に臨めるようにする。</p>	<p>課単元の終末に、学んだことをどう自分の生活に生かしていくのかを書かせたことで、自分なりに学んだことを表現することができるようになった。</p> <p>課話し合いの場面において、何のために話し合うのかを明確にしてから話し合わせたことで、目的に沿って話し合うことができるようになった。</p>	<p>教語彙を増やすために様々な本に触れる機会を設けたり、説明文を通して接続語を効果的に使えたりできるようにしていく。</p> <p>学同じ考えの人と話し合ったり、違う考えの人と話し合ったりしながら自分の考えをさらに深められるようにしていく。</p> <p>学様々な考えに触れることによって、自分の考えをしっかりと表現できるようになったり、考えをさらに深めることができたようにもなったりした。</p>	

<p>社会</p>					<p>学ICTを活用した映像資料の視聴や、地域の地図を使った学習などを通して実感を伴った理解を促していく。</p>	<p>学タブレットを活用することで実感を伴って理解したり、自分の身の回りについてや疑問などをより詳しく調べることができた。</p> <p>発調べたことから理由を考えたり、特徴をまとめたりすることが深くできなかった。児童が考えるきっかけになるような発問の工夫が必要である。</p>	<p>発資料を読み取る視点を示し、資料から何が分かるかを確認していく。</p> <p>学話し合い活動を取り入れ、調べた事実から社会的事象の意味について考えられるようにしていく。</p>	<p>発先に視点を示したことで資料からどのようなものが読み取れるか確認することができた。</p> <p>学話し合い活動を通して、自分たちが調べたいことをはっきりさせることができた。また、調べたことから、社会的事象の意味について考えることができた。</p>	<p>発課題に対して、順序立ててまとめていけるよう、キーワードを示したり、見本を提示したりする。</p> <p>教国土に関しては、繰り返し学習が必要と感じる。宿題等で定着を図るようにする。</p>	<p>発キーワードを示したことで、それについてまとめることができた。</p> <p>教ドリルパーク等の学習を通して、国土の名称の定着を図っている。少しずつではあるが、海洋や平野の名前を覚えてきている。</p>	<p>課授業の導入を工夫し、課題意識をもたせるとして学習のめあてに沿って、何をどう調べていけばいいか考えられるように支援していく。</p> <p>学話し合い活動を取り入れ、調べた事実から社会的事象の意味について考えられるようにしていく。</p>	<p>課パワーポイントや資料を効果的に活用し、児童が課題意識と見直しをもって学習に取り組めるようになってきた。</p> <p>学話し合い活動を意図的に取り入れたことで、社会的事象の意味を考えられるようになってきた。</p>
<p>算数</p>	<p>教習熟度に応じて、提示する問題の難易度を変える。また、じっくりコースでは、前学習の復習を行い、学力の向上を図る。</p> <p>課プリントやタブレットの学習では、文章問題を多く取り入れ、文章を読んで式を立てたり、答えを出したりする練習をする。</p>	<p>教それぞれの習熟度に応じた難易度で学習を進めたことで、学力の向上を図ることができた。</p> <p>課文章を理解し、立式することに慣れてきた一方で、数が複数出てくるような文章題など、問題が複雑化すると立式が難しい児童もいる。習熟度に合わせた学習を続けている。</p>	<p>課朝学習の時間に、ベーシックドリルを活用し、1年生の簡単な計算の復習を繰り返し行い、1位数の計算を定着させる。</p> <p>学図形を描く際には、電子黒板を活用し、教師の手本を示しながら、丁寧に描くことができるようにする。長さの測定では、しっかりと目盛りを読むことができるように机間指導を丁寧に行う。</p>	<p>課朝学習の時間に毎週復習の時間を確保したことで、既習事項の定着を図ることができた。ボックス君(位取り表)を用いることで繰り上がり繰り下がりの加減の仕方についての理解を促すことができた。</p> <p>学計算する前に見積もりの仕方を指導し、だいたいの数を考えて計算できるようになった。</p>	<p>課朝学習のベーシックドリルや宿題などで、2年生の計算の基礎問題や文章問題に繰り返し取り組ませる。</p> <p>学図形の構成は、デジタル教科書を活用し半具体物の操作から、数学的な見方、考え方を養う。量感や宿題などで、問題に取り組ませながら、イメージができるように活動を工夫する。</p>	<p>課かけ算やたし算など、ほとんどの児童が四則計算を身に付けることができた。しかし、計算する時に素早く解くことが難しく見られたため、引き続き問題に取り組ませていく。</p> <p>学デジタル教科書を活用したり、実際に具体物を用意して実際に活動したりすることで、イメージをもって課題解決することができた。</p>	<p>学授業の導入で既習内容の復習をしたり、繰り返し問題に取り組んだりすることで、基礎的な計算力の向上を図る。</p> <p>発問題に対して、自分がどのように解決したのかを図や言葉で表し、説明する活動を取り入れる。</p>	<p>学授業の導入で、既習内容を振り返ったり、繰り返し問題に取り組んだことで、普段の授業や東京ベーシックテストでも計算力の向上がみられた。</p> <p>発図や言葉、数直線等を使って問題の解き方を説明する活動を続けてきた。自分の考えを数学的な見方、考えから説明することができる児童が増えた。</p>	<p>教小数のかけ算・わり算の筆算の知識・技能を獲得するためには、繰り返しの学習が必要であり、個別指導の必要性も感じる。そのため、宿題だけではなく、教師が空いた時間を活用して指導できるようにしていく。</p>	<p>教多くの単元で小数のかけ算やわり算が出てきている。そのたびに、筆算の方法を確認し、定着を図っているところである。少しずつではあるが、支援がなくても自力で計算できるようになってきた。</p>	<p>発自分の考えをしっかりと伝えるよう机間指導をしていく。</p> <p>学様々な考え方に触れるために、タブレット等を効果的に活用していく。</p>	<p>発タブレットを活用することで、友達の考えを簡単に見ることができ、様々な考え方に触れることができる。そのため、自分の考えをなかなかもつことができない児童も友達の考えを参考にして、考えをもつことができた。</p>

理科					<p>発観察を始める前に、前に観察したものを振り返り、観察する視点を共有する。観察カードの描き方や留意点も説明する。</p>	<p>発植物や昆虫などの観察の際に、前時の振り返りを行ったことで、共通点や相違点に気付くことができた。しかし重さなどの実験の際には、表面的な数字で比べてしまい、気付きが浅くなってしまった。視点をもっと具体的に、深く気付けるようにする。</p>	<p>教実験内容やその結果・考察が、学習内容に結びつくように、一連の問題解決の流れを明確にし、板書を整理して書くよう工夫する。</p>	<p>教実験の結果・考察を順序だてて整理して板書してきた。流れが明確化されたことで、見通しをもって、学習に臨んでいる様子が見られた。</p>	<p>発既習事項を思い出すことができるように、予想や計画の場面で、既習に振り返って発問するように工夫する。 課実験をして分かったこと、予想との違いを見つけられるように、予想を振り返る時間を作ったり、分かったことを自分の言葉でまとめさせたりする。</p>	<p>発既習の学習を基にして考えることで、予想しやすく、理由立てて説明できるようになった。</p>	<p>発予想や計画も意欲的に考えていけるよう既習の学習を取り入れながら、発問を工夫する。 学様々な考えに触れるために友達との交流を増やしていく。</p>	<p>発既習の学習を振り返ることで、多くの児童が予想を立て、意欲的に学習に取り組むことができた。 学実験を行った後に、結果から分かったことを交流したことで、多角的な考えをもてるようになった。</p>
生活	<p>学観察カードをお互いに見合ったり、発表したりする中で、感想の書き方や表し方を共有する時間をつくる。</p>	<p>学共有の時間を設けたことで、感想を書いたり、見た事を絵で書き表したりする力が付いてきた。</p>	<p>発観察を行う前に、全体で観察の視点や用語の使い方などを共有する時間を設ける。視点を示し、自分の観察カードをかく際に生かせるようにする。</p>	<p>発観察カードをかく際にタブレットで撮影し、細かな所まで丁寧に観察してかくことができた。一方で、感じたことを言葉で表現するためには、更に指導が必要である。</p>								
音楽	<p>発児童一人一人に応じた個別指導を行う。</p>	<p>発分かりやすい言葉で発問したり、児童の実態に合わせた指示をしたりすることで、学習活動への参加を促すことができた。</p>	<p>教鍵盤ハーモニカの運指が視覚的に理解できるようにICT機器を活用したり、必要に応じて個別の指導を行ったりする。</p>	<p>教鍵盤ハーモニカの学習では、個別の指導を行ったり、合格カードを活用したりすることで、目標をもって学習することができた。また、けやきの森フェスタを経て、楽器で演奏することに対する意欲が高まった。</p>	<p>発個別指導をしながら学習活動への参加を促していく。</p>	<p>発個別に技能指導を行い、実態に合わせた指示をすることで、学習への参加を促すことができた。</p>	<p>課学年の実態に合った題材の工夫や課題の設定を行う。 発個別指導をしながら学習活動への参加を促していく。</p>	<p>課学年の実態に合った選曲をすることで、進んで学習活動に取り組むことができた。 発個別に技能指導を行い、実態に合わせた指示をすることで、学習活動への参加を促すことができた。</p>	<p>課学年の実態に合った選曲をすることで、進んで学習活動に取り組むことができた。 発個別に技能指導を行い、実態に合わせた指示をすることで、学習活動への参加を促すことができた。</p>	<p>発児童一人一人に応じた個別指導を行う。</p>	<p>発児童一人一人に応じた技能面での個別指導を行うことで、意欲的に学習活動に参加することができた。</p>	
図工	<p>教新しい素材との出会いや道具の新しい</p>	<p>教新しい素材との出会いや道具</p>	<p>学一人一人が自分の進み具合で安心して学</p>	<p>学進度のはやい児童にミニ先生</p>	<p>発見本を例示するのではなく、個々の興味</p>	<p>発イメージじぶら児童には個々</p>	<p>課学習ルールは担任と連携して指導する。</p>	<p>課トラブルがあった時、担任と連</p>	<p>課学習ルールは担任と連携して指導する。</p>	<p>課毅然とした態度で良いことと</p>	<p>発今の自分の感性を形に残せるように声掛</p>	<p>発6年生になってやや硬い表現</p>

	<p>使い方をすることを通して、創作意欲を刺激し、活動に関心をもちたせる。</p> <p>発個に応じて声をかけたり、褒めたりして活動を楽しめるようにする。</p>	<p>の新しい使い方をすることで、毎時間興味関心をもち活動に取り組めた。</p> <p>発机間指導を増やし、多くの児童に声掛けすることで、活動を楽しむ児童が増えた。</p>	<p>習できるよう、到達度に応じて指導する機会を増やす。</p>	<p>になって手順を伝えてもらうなど、教え合いの機会を増やした。その結果自分に自信がもてない児童も意欲的なかわりが見られた。</p>	<p>や関心から作品化できそうなイメージを引き出し、提案する。</p>	<p>の興味を引き出すことと、ある程度時間を作って待つ姿勢も大事であった。ずっと頭の中で形にならないことが、ある時閃いて順調に作品化できた。</p>	<p>手持無沙汰な状態にならないように、次にやることを提案する。</p>	<p>携して聞き取りを行った。授業後に再度児童らと納得のいくまで話し合いをし、解決できた。全員の学びが充実するように少し先の準備も欠かせない。</p>	<p>個々の良いところをほめながら、次にやることを提案する。</p>	<p>いけないことを伝え、個々の力を伸ばすような言葉かけをした</p>	<p>けを工夫する。自分がイメージした以上のところまで到達できるような助言をする。</p>	<p>になる児童が目立ってきた。自分の表現は他と比べられない唯一無二であることを伝え、発想の自由さを伝えたい。</p>
家庭									<p>学調理や裁縫の手順を短い言葉で示したり、師範を実際に見せたりして、基本を指導する。また、実態に応じてできる方法を教えるなど個別に支援を行う。</p> <p>課トライカードを活用し、学校で学んだことを家で実践し、家族の喜びを次のやる気につなげる。</p>	<p>学自分の裁縫箱を持ったことやミシンの使い方を通して学び、実践を繰り返して学ぶことで、裁縫への意欲が高まった。調理には多くの児童が関心をもって学び、実践に取り組んだ。</p> <p>課家での実践をトライカードにまとめることにより、家庭への周知と児童の意欲につながった。</p>	<p>学学習の手順を短い言葉で示したり、師範を実際に見せたりして、自分の力で取り組めるようにする。できないままにならないように、個別に支援を行う。</p> <p>教裁縫は複数の製作例を提示することにより、実生活で使おうと思える物を製作する。例年より少し手のかかる物も提示し、技能が上位の児童の意欲をさらに向上させる。</p>	<p>学「食」にも関心が高い児童が多く、実習にも積極的に取り組む。実習は去年不参加、今年参加という児童がいた。</p> <p>教複数の製作例から自分で選ぶことにより、作る意欲につながることができた。独自の工夫までは難しかった。</p>
体育	<p>学友達と一緒に運動する際に、学び合いの仕方や意識する視点などについて丁寧に指導する。また、上手に体を使うことができている児童を取り上げ、コツや動き方を共有する。</p>	<p>学上手な友達の動きをみたり、ポイントを考えて運動をしたりしたことで、意欲的に学習に取り組むことができた。</p>	<p>学鬼ごっこやミニリレー、勝敗がすぐに決まる簡単なゲームを繰り返して行い、勝敗が全てもしくはなく、運動自体を楽しむ姿を価値づける。</p>	<p>学勝敗がすぐに決まる遊びを繰り返して行ったことで、負けても怒らないことや運動自体を楽しむことができる児童が増えた。一方で、まだ勝敗を受け入れられない児童もいる。</p>	<p>学学習を通して気付いたことや考えたこと、工夫したこと等、自分ができるようになったことを認めていく。自分だけでなく他の人の良かったところを話す時間を設ける。</p>	<p>学学習の一時間ごとや単元の終わりに振り返りを行ったことで、自分の成長に気付くことができるようになった。一方で、他の人と比べてしまい、自分自身の成長を認めにくい児童もいる。</p>	<p>学勝ち負けだけに固執するのではなく、仲間と協力し記録を伸ばしたり、個人の能力を伸ばしたりすることを中心に考え、授業を構成していく。</p> <p>課技術的な視点を子供たち同士で伝え合い、能力を高め合えるように、ICTを活用する</p>	<p>学試合での勝敗にこだわることもあるが、それぞれの能力を生かすことをさらに伸ばそうとする姿勢が見られた。</p> <p>課ICTを活用し自分の動きを動画や写真で記録する活動をしてきた。自分自身の動きを振り返って改良しよう</p>	<p>課自分の課題を把握できるよう、どんな姿を目指したいのか等、理想や目標を明確にした上で、そこに向けて何をすべきか、何をしたいかを明らかにしていく。</p> <p>課主体的に取り組めない児童については、魅力的な運動や練習の場を設けたことで、主体的に取り組むようになった。協働的に学ぶ児童も増えた。</p>	<p>課理想や目標をもたせたことで、自身の課題が明確になり、その課題解決に向けて意欲的に取り組めるようになった。</p> <p>課魅力的な運動や練習の場を設けたことで、主体的に取り組むようになった。協働的に学ぶ児童も増えた。</p>	<p>課学級全体の課題だけでなく個人のめあてを設定させ、その課題解決のためにどのような友達と関わり、運動していくかを単元を通して考えさせる。</p> <p>発・教運動特性に応じたポイントを伝え合えるように、児童の姿を取り上げながら運動のコツを考える視点を示す。また運動に関する動画をTeamsにアップし、運動のコツや上</p>	<p>課個人のめあてを設定し、課題解決に向けて考える時間を設けたことで、一人一人が自分のめあてに向けてどのような取組をするべきか考えて運動することができた。</p> <p>発・教児童の良い動きを価値づけ、共有することで、その視点</p>

								としたり、子供同士が教え合いをしたりする姿がみられた。			手な姿をいつでも確認できるようにする。	に沿って友達にアドバイスできる児童が増えた。また、動画を撮ったり、友達の動きを動画で見返したりしたことによって、意欲的に運動に取り組むことができた。	
道徳	<p>学授業の中で、児童が自己内対話をしていけるよう、学校生活や家庭での生活など、身近な例を振り返り考える機会をつくる。</p> <p>教「吹き出しのワークシート」や「登場人物へのお手紙」などの様々な教材を用意し、児童が考えを表現できるようにする。</p>	<p>学児童の実態に合った発問をしたり、生活に身近な事例を用いて考えさせたりしたことで、児童が自分事として考えることができた。</p>	<p>学ワークシートに書いたり、タブレットで打ったり、体で表現したりと、様々な表現方法を用いて、自分の考えを発表できるようにする。</p> <p>発机間指導の際に一人一人に問いかけることで自己内対話を促す。また、声を掛けることで自分の考えに自信をもたせる。</p>	<p>発発問の吟味、厳選をすることで、児童に価値項目について考えさせることができた。また、挿絵を活用することで自分の考えを表現したいと思えるようになっていく。</p>	<p>学全体発表だけでなく、小規模での話し合いの時間を設定し、段階的に話し合えるようにする。その中で、様々な考えに触れることを通して、自己内対話を促していけるようにする。</p> <p>発全体や個別に、言葉や図など、表現の仕方を声掛けする。机間指導の際に、児童の考えを認めたり表現できるように支援したりする。</p>	<p>学小グループで話し合う時間を設定することで、様々な意見がでるようになった。自分の考えを表現することが難しかった児童も、様々な考え方に触れることで自己表現のきっかけとなっていた。</p>	<p>発発問を厳選し、ねらいに則した考えを明確にもてるように支援する。グループ交流の時間をとり、いろいろな意見を知ること、自分の考えを表現する力を伸ばす。また、お互いの考え方の「違い」を認め合えるような雰囲気づくりができるよう声掛けしていく。</p>	<p>発発問を狙いに合わせて工夫した。グループ交流の時間をとったことで、様々な意見を知ることができた。また、考えをもつことが難しかった児童も、自分の考えをもち、発言したりワークシートに書き込んだりする姿が見られた。</p>	<p>学グループで話し合う場面と、全体で考えを共有する時間を設け、様々な考え方に触れられるようにする。また、全体共有の場面では、問い返しを繰り返して用いて、全体での対話はもちろん、自己内対話を促していけるようにする。</p>	<p>学小グループと全体での交流を設定したことで、様々な考えに触れることができた。また、繰り返し問い返しを用いたことで、自己の生き方に対する考えを深めていくことができた。</p>	<p>学ワークシートに書くことや発表する以外にも、Teamsやオクリンク上でも自己内対話を促す。こうすることで、挙手発表が苦手な児童も気軽に自分の考えを表現したり、多くの友達の意見にふれる中で道徳的価値に対する考えを広げられるようにしたりする。</p>	<p>学Teamsやオクリンク等で共有することによって、挙手発表が苦手な児童も様々な友達の意見に触れ、考えをさらに広げられるようになった。</p>	
外国語										<p>教ワークシートを活用し、書くことにも慣れさせるようにする。また、スピーチテストでは、原稿を準備させ、書いたものをもとに発表できるようにする。</p>	<p>教歌のリズムで単語やちょっとした文を覚えることができた。スピーチをさせるときに、原稿を作って、読み方の練習をさせるなど、発表に向けて時間を作ることで、単元で学習したことを生かすことができていた。</p>	<p>学歌やチャンツは単元当初に分割しながら練習し、通して歌えるようにする。またワークシートを工夫し、英文を書く機会を増やす。これらの工夫で基礎的・基本的な内容を繰り返し練習する中でインプットし、発表やスピーチ原稿などアウトプットする際に生かせるようにする。</p>	<p>学歌やチャンツを分割しながら練習したことで、多くの児童が覚え、コミュニケーションの中で活用できるようになってきた。また、基礎的・基本的な内容を繰り返し練習したことにより、スピーチで自信をもって発表できる児童が増えた。</p>

